

国 語 問 題

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 24 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

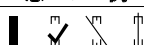
5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

良い例	悪い例
	

解答 番号	解					答					欄				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20															

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
- (3) 解答用紙へのマークはすべて H B のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧によく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。
- (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
- (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
7. 試験時間中に退場することはできません。
8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

明治に入って近代化がはじまって以降、思想や文学のなかで、繰り返し議論されてきた課題が日本にはあった。それは「個人」という言葉にかかわることで、日本では近代的な個人が確立されていないのではないか、というような言い方がしばしばなされてきた。

A 私自身は、このような言われ方を聞いた⁽¹⁾に、この議論は二重の誤解のうえに成り立っている、と思っていた。その誤解のひとつは、ヨーロッパの近代思想史を正確に学ばなかったところから発生している。ヨーロッパにおいても、理念として示された近代的個人と、実際に社会のなかで暮らしている個人は、つねにくい違っていたし、このくい違いをいかに克服していくかをめぐって、ヨーロッパの近代思想史は展開してきた。すなわち、欧米では個人が確立されており、日本では個人の確立が未成熟だというような通俗的な見解は、いつの間にかつくられた^(ア)キョゾウだ^(イ)としかいいようがない。

それが「個人」をめぐる第一の誤解だとすれば、第二の誤解は、日本の伝統的精神のなかには「個人」という考え方がない、という思い込みから生じている。そうではなく、現実の世界では共同の世界を重視し、人間の生をつきつめた世界では、個人として生きる人間をみつめるという精神の多層性が、日本の伝統的な特徴だったのではなかったか。

ところが、社会が近代化し、共同体的世界がこわれてくると、現実の世界のなかでは、伝統的で共同的な人間の存在のあり方がわからなくなってくる。⁽²⁾共に生きる世界に自分が存在するという感覚は薄れ、個人が生きる場として共同の世界もとらえられるようになる。つまり、共同の世界があつてこそ個人も生きているという感覚から、個人が生きる手段として共同の世界をとらえる感覚へと、変化していったのである。

この変化のなかに、近代化していく日本のクッセツした個人主義が成立したのではないか、と私は思っている。⁽¹⁾それは、自分の思うようにならない共同の世界を批判しながら、**B** 自分^(イ)の手段として機能してくれない共同の世界を批判しながら、たえず個人を主張していく個人主義である。その結果、逆に、共同的なものを、個人の目的を実現させる手段として利用しようとする動きも生まれてくる。どちらにしても、個人の利益以外のものはみえなくなっている。

ここに、きわめて個人主義的な日本の近代社会が形成されていったのであろう。そして、この変化を容易にした原因に、日本の伝統精神の一面であつた「個人主義」の変容があつたのではなからうか。日本の伝統的精神は、奥に強い個人主義をもっている。ただしそれは、現実^(イ)に生きてい

る世界で現れてくるものではなく、「つきつめれば、生きるも死ぬも吾一人」といった、純粹に人間をとらえたときの超越的な世界での人間認識であった。

ところが、現実がすべてであると考え近代社会ができてくると、かつては超越的な人間認識であった個人主義の精神も、現実の世界へと移ってきた。⁽³⁾秘められた個人主義が、現実世界の個人主義として姿を現すようになったのである。

日本の近代史をふり返ると、多くの人々が、日本の人たちに個人の確立を求めてきた。ところが、他方で、日本の近代社会がもっているエゴイステイックで個人主義的な性格に、少なからず批判をもちつづけてきた。このふたつの思いの狭間^{はざま}で、多くの人々が悩んできた。

この問題に対して、私は次のように考えている。日本の伝統的精神では、共同的な人間の存在と個人としての存在は、精神の多層性をもつことによって並存することができた。ところが、社会の近代化とともにそれがこわれたとき、現世的な強い個人主義の社会をつくりはじめた。とする⁽⁴⁾と、いま私たちは、日本的な風土と精神の關係にまで遡って、この問題をとらえなおさなければならないのではないかと。

日本の精神には、論理的な思考と非論理的な思考とをあわせて、多層的に受け入れていく性格がある。それは、日本的な自然条件のもとで暮らした人々の生みだした精神といってもよく、いわば、自分が存在している地域の自然と、折り合いをつけながら生きてきた人々の精神であった。とすればこれは、地に足をつけて生きている人々の、そして自分の生きるローカルな確かな世界をもっている人々の精神であって、自然と人間が共有するこのローカルな世界を失ってしまえば、成立しえない精神である。

このあり方は、近代以前の人々の行動にもあらわれていた。いまでは歴史学が明らかにしているように、近代以前の人々は、けっして村や地域の⁽⁷⁾ことしか知らずに暮らしていたわけではなく、けっこう広い世界と交流しながら日々を過ごしていた。農村から生みだされる作物やその加工品、手工業品は、さまざまな地域に流れていたし、塩の道などの街道をとおして、いろいろな人々が行き来していた。ときには善光寺参りや伊勢詣でのかたちで旅をすることもあった。

そのとき、自分の暮らすローカルな世界での行動と、その外の人々と付き合うときの行動は、はっきり使い分けられていたのではないだろうか。自然や、そして村人たちと共有されているローカルな世界では、論理的には説明できない考え方や習慣も展開した。C、外の世界の人々と付き合うときには、一定の論理性、合理性が貫かれていた。たとえば藩や幕府にあてた村人の書いた古文書では、きわめて論理的に自分たちの主張が書かれているし、商品作物の取引引きなども合理的におこなわれている。それは村の暮らしのなかでは、トウカ⁽⁷⁾の考え方をもちに交換がおこ

なわれ、村の外では合理的な代金の支払いがおこなわれる、といったところにも現れる。

すなわち、論理性と非論理性をあわせて多層的に受け入れていく精神は、論理性と非論理性の折り合いをつけながら展開する、ローカルな世界を共有している人々の間で成立するものであって、⁽⁵⁾すべての場面で適用されるべきものではないのである。だから、この世界を共有していない人々と交流するときは、むしろ合理的、論理的方法が用いられた。

この関係は、今日の私たちの日常でも受け継がれている。

D 一番小さなローカルな世界である家族や、友人との世界では、私たちは論理的な付き合い方だけをしているわけではない。私の暮らす群馬県上野村のように、村とは自然とここに住む人間の共有された世界だ、という感覚が残っているところでも同様である。このように、小さな世界を共有している人々の間では、今日なお、論理性と非論理性が、多層的に共存している。⁽⁶⁾

⁽⁶⁾ 私はこの多層的な精神のあり方を、率直に承認する。しかし忘れてはならないことは、この精神は、それぞれの地域が「私のクニ」と呼ばれていた、^(エ)ブンケンの地域が自律性をもっていた社会において、有効な精神だったということである。

ところが近代化が始まると、地域の自律性が薄まり、地域の共有感も弱まっていった。そして、それにつれて、この精神の多層性が、共有された世界を超えて適用されるようになってしまった。その結果、共有されたローカルな世界にもとづかない、すなわち論理的、合理的に決めていかなければいけない場面にも、非論理的な決定が持ち込まれるようになった。そうなれば、論理性と非論理性は、自分の主張を実現させるための、単なる手段としての使い分けになってしまう。

私は、政治や経済、大きな社会、大きな企業、共有された世界が成立していない地域などに、多層的な精神を持ち込むことには同意しない。なぜならこの精神は、あくまで、社会がローカルな世界の連合体であるときに、有効なものなのだから。

(内山節『里』という思想)より。出題にあたって、本文を一部改変した。)

*注1 超越的

普通に考えられる経験とは切り離されているさま

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 匿
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 底
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) キョゾウ

- ① 去
- ② 挙
- ③ 巨
- ④ 許
- ⑤ 虚
- ⑥ 造
- ⑦ 像
- ⑧ 増
- ⑨ 象
- ⑩ 蔵

(イ) クツセツ

- ① 掘
- ② 苦
- ③ 屈
- ④ 久
- ⑤ 区
- ⑥ 説
- ⑦ 節
- ⑧ 折
- ⑨ 接
- ⑩ 切

(ウ) トウカ

- ① 等
- ② 当
- ③ 投
- ④ 頭
- ⑤ 透
- ⑥ 下
- ⑦ 火
- ⑧ 過
- ⑨ 加
- ⑩ 価

(エ) ブンケン

- ① 憤
- ② 分
- ③ 文
- ④ 蚊
- ⑤ 聞
- ⑥ 権
- ⑦ 県
- ⑧ 陰
- ⑨ 献
- ⑩ 件

問二 空欄 A ・ B ・ C ・ D に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマ

クしなさい。

5

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-------|---|------|
| ① | A | いかにも | B | すなわち | C | さりとして | D | なお |
| ② | A | とりわけ | B | いわば | C | けれども | D | もちろん |
| ③ | A | ただし | B | とにかく | C | それでも | D | まさに |
| ④ | A | もつとも | B | つまり | C | しかし | D | たとえば |
| ⑤ | A | とはいえ | B | さらに | C | または | D | だから |

問三 傍線部(1)「二重の誤解」とあるが、筆者はどのように考えることが誤解であると述べているか。その説明として適切なものを、次の①～⑥の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

6

- ① 現実の世界では個人として生きる人間が重視されると考えること
- ② 日本においては伝統的に「個人」という考えがないと考えること
- ③ 人間の生を極めることが欧米の伝統的な特徴であると考ええること
- ④ 理念としての個人と現実社会のそれとが同じであると考えること
- ⑤ 欧米では個人というものがしっかりと確立していると考ええること
- ⑥ 日本では欧米の近代思想史が正確に学ばれていないと考えること

問四 傍線部②「共に生きる世界に自分が存在するという感覚」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 自分というものは、現実の共同の世界があるからこそ生きていけるのだという感覚
- ② 共に生きる場所である共同体的世界は、自分を受け入れてくれているという感覚
- ③ 共同の世界は人間の生をつきつめた世界であり、自分もその一員であるという感覚
- ④ 共同の世界においては、結局のところ、自分一人で生きていくしかないという感覚
- ⑤ 自分がいなければ、他者と共存している世界はそもそも存在しえないという感覚

問五 傍線部③「秘められた個人主義が、現実世界の個人主義として姿を現すようになった」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 日本社会の近代化の過程で、つねに批判的であつたはずの、エゴイスティックで個人主義的な考え方が、日本の伝統的精神を乗り越えてその地位を確立したということ
- ② 日本社会が近代化していくうちに共同体的世界がこわれてきたことを実感したことにより、その反動として、伝統的な個人主義が見直され、定着するに至ったということ
- ③ ヨーロッパの近代思想を学ぶことで、日本社会が次第に変容し、ヨーロッパにおいて理念として示された近代的個人という考え方が受容されるようになったということ
- ④ 日本社会が近代化するにつれ、超越的な世界での人間認識であつた個人主義が、共同の世界においてもたえず個人を主張する現世的な強い個人主義へと変容したということ

問八 傍線部(6)「私はこの多層的な精神のあり方を、率直に承認する」とあるが、筆者が承認する「多層的な精神のあり方」に当てはまらないものはどれか。次の①～⑥の中から二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

10

- ① 現実の世界では共同の世界を重視し、人間の生をつきつめた世界では、個人として生きる人間をみつめる精神のあり方
- ② 地に足をつけて生き、そして自分の生きるローカルな確かな世界をもっている人々の精神のあり方
- ③ 共に生きる世界に自分が存在するという感覚が薄れ、個人が生きる場として共同の世界もとらえるような精神のあり方
- ④ 論理性と非論理性を、自分の主張を実現させるための、単なる手段として使い分ける精神のあり方
- ⑤ 居住地域を、自然と住人の共有された世界であるにとらえる感覚が残っていると、そこに受け継がれている精神のあり方
- ⑥ 共有された世界が成立しており、社会がローカルな世界の連合体であるときに有効な精神のあり方

Ⅱ 次の文章は恩田陸の小説『蜜蜂と遠雷』の一部である。芳ヶ江国際ピアノコンクールの出場者選考オーディションにおいて、審査員である嵯峨三枝子、アラン・シモン、セルゲイ・スミノフの三人は、候補者の一人で、伝説的なピアニストであるユウジ・フォンⅡホフマンの推薦状を持つ少年カザマ・ジンの演奏に衝撃を受ける。以下はそれに続く場面である。よく読んで、後の設問に答えなさい。

通常、合格者はすぐに決定され、候補者に結果が伝えられる。

しかし、今回、別室で協(ア)ギに入った三人はなかなか出てこなかった。時折激しいやりとりが交わされるのを、廊下でスタッフたちが不思議そうに顔を見合わせて聞くのも異例のことである。

もちろん、三枝子(1)がカザマ・ジンを合格者とすることを強硬に反対したためだ。

審査は点数制で、純粹に点数を多く稼いだ者から合格となるが、オーディションの場合、最低ラインが決められているので、その点数を超えないと、合格者なしというケースも有り得る。

カザマ・ジン以外に合格させてもよいと考えた候補者はほぼ三人が一致していて、そちらの二人はすんなり決まったので、専(モ)らカザマ・ジンについてほとんどの時間が費やされていた。

シモンとスミノフが最高点に近い点数をつけているので、三枝子が零点をつけてもカザマ・ジンはかろうじて合格ラインに達している。そのま(マ)ま三枝子を見無視してもカザマ・ジンの合格は決定できるのだが、シモンとスミノフはそれをよしとしなかったため、えんえん協(コ)ギが長引いてしまったのだ。

三枝子は三枝子で、もうカザマ・ジンの合格は決まっていることを承知で、それをテ(イ)ッ回させるべく二人に抵抗を続けた。

三枝子の主張は、以下のようなものである。

もし、彼がホフマンの弟子でなかったならば、文句は言わない。しかし、彼がホフマンの弟子を名乗り、本物の推薦状まで貰(モ)っているのであれば、ホフマンの音楽性を真つ向から否定するような、あのふざけたスタイルの演奏は許(コ)しがたい。まるで、師匠の音楽性を冒瀆(ボウトク)し、師匠に喧嘩(ケンカ)を売っているようなものではないか。それは音楽家の態度としていかがなものなのか。彼が音楽家として独り立ちして、改めて師匠のスタイルから離れていくというのなら分かる。だが、この段階で師匠の音楽を全く理解していないというのは問題だと思う。

シモンとスミノフは、三枝子の意見に理解を示した上で、交互に攻めてきた。

彼に図抜けたテクニックとインパクトがあることは認めるね？ ならば、彼の音楽を許すの許さないのというのは我々が決めるべきことではない。ある一定ラインに達していれば、機会を与える。それがこのオーディションの目的なのであって、候補者の音楽性が気に入るか気に入らないかは、現時点では問題ではない。

そもそも、これだけの議論をさせるということだけでも凄いことではないか。こうも正反対の支持と拒絶を異なる聴き手から引き出すというのは、⁽²⁾彼が「何か」を持っていることの証明である。複数の審査員がいると、⁽³⁾瑕疵の少ない、つまらない者ばかり残って面白くないいつも文句を言っていたのは三枝子ではないか。もしかして、まぐれだという可能性もあるけれど、彼がなにがしかのエモーショナルな感情を聴き手に与えたということは事実なのだから、それを第一に優先すべきではないか。ましてや、彼は素晴らしいテクニックも持ち合わせているのだから。

二人の説得に穴はなく、徐々に三枝子は劣勢になり、無言になった。

決め手は、二人の次の台詞^{せりふ}だった。

もう一回聴いてみたたくない？ あれがまぐれだったのかどうか、確かめたたくない？

モスクワやニューヨークの連中に、あの子を聴かせてみたたくない？ あいつらがどんな反応をするか知りたくない？ あいつらに^{ひんしゅく}響感を買わせるのは、それはそれで楽しそうだろう？

二人は、三枝子のツボを知っていた。現在、世界に散って各地のオーディションを担当しているグループには、微妙な違いがある。特にモスクワとニューヨーク担当のグループとは、決していがいあっているわけではないが、陰で三枝子たちが「権威派」「良識派」と呼んでいる（もちろん、皮肉を込めた呼び名である）面々なのであった。

そして、三枝子はいく想像してしまったのである。

あの素敵な面々が、カザマ・ジンの演奏を聴いて嫌悪感を^{にじ}滲ませ、ヒステリックに、なんであんな下品な演奏を合格させたのかと叫び、詰め寄られた自分たちが平然としているところを。

自分が同じ反応を起こしたことも忘れて、その場面が非常に魅力的に思ってしまったというのは事実だ。そして、⁽⁴⁾その誘惑のためだけに、洪々カザマ・ジンを合格させることを承知してしまったというのもまた事実なのだった。

よっしゃ、合格者に連絡だ。

三枝子がうなずか頷かないかの中に、同時にシモンとスミノフは立ち上がり、ドアを開けスタッフに声を掛けていた。三枝子はあぜんとする。やられた、二人に丸めこまれた、と思ったが、既に後の祭り^(a)であった。

もしかすると、後の祭りだと感じているのは、スミノフのほうなのかもしれない。

三枝子は三本目のワインの中身が、影のようにやってきたギャルソンの手でグラスに注がれるのを見ながら、彼の横顔をじっと見つめていた。

「たぶん彼は、これまでに全く正規の音楽教育⁽⁵⁾を受けていない」

スミノフはひとりごとのように呟^(つぶや)いた。

「ステージに出てきた時の様子、曲を連続して弾いたこと。もしかすると、人前で弾いたのも初めてなのかもしれん。ホフマンはそのことを重々承知していた。だからこそ、ホフマンは、推薦状を書いて寄越し、自分に師事していると履歴書に書かせたんだ」

「なぜ？」

薄々気付き始めていたものの、シモンと三枝子は知らんぷりをして尋ねた。

スミノフも、二人が感づいていることに気付いている表情で、同じくそっけなく答える。

「彼にオーディションを受けさせ、合格させるためさ」

「そりゃ、当たり前でしょう」

三枝子は肩をすくめた。

それを見たスミノフは、更に大仰に肩をすくめてみせる。

「おいおい、知らんぷりはよせよ、二人とも。俺が何を言いたいのか、もう分かってるくせに」

スミノフはがぶりとワインを飲んだ。

「昼間、ミエコが言った通りだ。我々は、ホフマンの音楽性を否定することはできっこない。あまりにも彼を尊敬しているし、あまりにも彼の音楽は素晴らしかったから。そして、彼はもうこの世の人間ではないんだ」

その表情は、厳しい。

「そして、カザマ・ジンは合格した。まふまふホフマンの思惑通り、我々は彼を合格させてしまった。見ただろ、スタッフの熱狂を？ たちまち噂は広がる。もちろん、ホフマンの推薦状のことも」

三枝子はなんとなくゾツとして、身体をぶるつと震わせた。

「そもそもなぜ推薦状をつけるか？ それは、落とすにくくするためだ。大事な弟子を、大事に扱ってもらうようにするためだ」

スミノフは、奇妙な笑みを浮かべて二人を見た。

シモンが後を続ける。

「つまりは、推薦状がない奴は落としてもいいってことさな」

スミノフは満足そうに頷く。

「その通り。だって、我々は、まさに『正規の音楽教育』によって口を糊のりしているわけだからな。幼い頃からレッスン代を払ってもらい、音楽大
学に入ってもらい、授業料を払ってもらう。それだけの手間暇を掛けた大事な弟子を、誰の口も糊のりしてこなかったこの馬の骨とも知れぬ人間と
同じに扱ってもらっちゃ困る。そのための推薦状だ」

三枝子は、唐突に、最近どこかで聞いた噂話を思い出した。

日本の地方自治体が主催したとあるピアノコンクールで、ずば抜けた天才肌の候補者が勝ちあがったものの、国内の音楽界に全く知りあいがお
らず、審査員はもちろんその関係者にもレッスンを受けていなかったために、最高点を集めたのに結局つまらない難癖をつけられて失格扱いに
なってしまったという。

「ホフマンの推薦状には、二重の目的があったんだ。まずは、無名の彼にオーディションを受けさせ、合格させること。そして」

スミノフは、一瞬遠い目になった。

「この先、彼をクラシック音楽界に無視させたり黙殺させたりしないこと、だ。だから、どうしても推薦状は必要だった。全く畑違いのところか
らやってきた彼を、我々や他の先生方が無視しようとしても、ホフマンの推薦状がそれをさせない。それはまさに、我々や世界の音楽ファンが崇あが
めてきたホフマンを否定することに他ならないからだ。しかも、それ以上に恐ろしいのは」

スミノフは真顔で二人を振り向いた。

「この少年には本当に凄まじいテクニックがあつて、聴く者を熱狂させてしまうということだ。全く音楽教育を受けていないのに、ね」

三枝子とシモンは身動きみじうもせずにスミノフの話に聞き入っていた。

⁽⁶⁾ひょっとして、あたしたちはとんでもないことをしてしまったのだろうか。

何かが知らないところで動きだしているような、^(b)空恐ろしい心地になる。

突然、携帯電話の着信音が鳴り響いた。

三枝子とシモンは同時にびくつとする。

「失礼」

スミノフが携帯電話を取り出し、出た。スミノフの大きな手が握っていると、まるで携帯電話はフィンガーチョコレートをつまんでいるかのよううに小さく見える。

「うん——はあ、なるほどね。そうか」

スミノフはしばらくぼそぼそと話していたが、礼を言つて電話を切った。

二人がもの問いたげにすると、電話をしまいながら説明する。

「事務局からだ。ようやくカザマ・ジンに連絡がついたらしい」

「今頃？」

シモンが思わず時計を見る。じきに日付が変わろうという時刻である。

「父親(ウ)はヨウ蜂家だそうだ。生物学で博士号も持つてて、今は都会でのヨウ蜂を研究してるんだと。今日はバリ市庁舎で蜂蜜を集めてたらしい」

「ヨウ蜂家」

三枝子とシモンは初めて聞く言葉のようにのろのろとその言葉を繰り返した。

「まさに畑違い、だな」

シモンは苦笑する。

(7)

彼を本物の『ギフト』とするか、それとも『災厄』にしてしまうのかは、皆さん、いや、我々にかかっている。
今この時、三人の頭の中に同じ文章を読むホフマンの声が響いていることは間違いなかった。

*注1 瑕疵^{かし} 欠点、欠陥

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナ部分と同じ漢字を使っているものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(ア) 11

(イ) 12

(ウ) 13

(ア) 協ギ

① 疑問

② 技術

③ 正義

④ 礼儀

⑤ 会議

(イ) テツ回

① 徹夜

② 撤退

③ 哲学

④ 製鉄

⑤ 更迭

(ウ) ヨウ蜂

① 使用

② 洋服

③ 養育

④ 太陽

⑤ 容器

問二 傍線部(a)・(b)の本文中での意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)
14

(b)
15

(a) 後の祭り

- ① 準備が足りずに失敗すること
- ② 会話から取り残されて寂しいこと
- ③ 適切な機会を逃してしまうこと
- ④ 今さら気がついても取り返しがつかないこと
- ⑤ 物事が終わってから騒ぎ出すこと

(b) 空恐ろしい

- ① 見えない力が働いていることを察知し、あらがえない無力さを感じる
- ② 将来に悪いことが起こるとわかり、逃れられない不安を感じる
- ③ 次に取るべき行動がわからず、ぼんやりとした心配を感じる
- ④ 事態が悪い方向に動き出したことで、失敗したことへの後悔を感じる
- ⑤ 明確に理由は断定できないが、言いようない恐ろしさを感じる

問三 傍線部(1)「三枝子がカザマ・ジンを合格者とすることを強硬に反対したためだ」とあるが、なぜ三枝子は反対したのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① カザマ・ジンがホフマンの弟子であることを自認し、古い形式の音楽性を守ることに固執していたから
- ② カザマ・ジンはホフマンのような感情を込めた演奏をしたが、それは三枝子が期待した音楽性ではなかったから
- ③ カザマ・ジンがホフマンから推薦を受けたにも関わらず、その音楽性を否定するような演奏を行ったから
- ④ カザマ・ジンはホフマンを尊敬する三枝子の心情に応えるためにあえて従順な演奏を心がけたから

問四 傍線部(2)「これだけの議論をさせる」とあるが、なぜこの議論は紛糾しているのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① カザマ・ジンの演奏から感じられる音楽性や師匠との関係などについて審査員の意見が割れたが、一人の意見を見捨てた決定をシモンとスミノフは行いたくなかったから
- ② シモンとスミノフはカザマ・ジンの実力を認めてはいるものの、音楽界の権威の反対を考えると三枝子に可否の責任をとらせたかったから
- ③ 音楽界の重鎮であるホフマンからの推薦状があるため師弟関係を考慮しなければならないが、それにしてもカザマ・ジンの演奏があまりにも稚拙だったから
- ④ カザマ・ジンの演奏レベルが高すぎて既存の審査基準では適切に評価できず、新たな評価方法を検討する必要があったから

問五 傍線部③「彼が「何か」を持っている」とあるが、この彼が持っているものとは何か。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① 師匠の教えを忠実に守った音楽性と誰しもが魅了される演奏力
- ② 堅実で安定した欠点の少ない演奏にも関わらず意外性を感じさせる力
- ③ 英才教育でしか養うことのできない技術力と聴き手の心に訴えかける表現力
- ④ 演奏技術や表現力はもちろんのこと、それらの言葉だけでは言い表せない才能

問六 傍線部④「その誘惑のためだけに」とあるが、この誘惑とは何か。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① ふざけたスタイルの演奏をする新人に代わって自らがホフマンの後継者になりたいという誘惑
- ② 古典的な音楽様式を尊重する気持ちがあるということを「あの素敵な面々」に訴えたいという誘惑
- ③ 音楽の伝統や格式などを重んじる保守的な音楽家たちに衝撃を与えたいという誘惑
- ④ 他人の演奏技法を形式的に否定しておいて実際には自らの技法として昇華させたいという誘惑

問七 傍線部(5)「正規の音楽教育」とあるが、それはどのような教育のことを指すか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 音楽界の人間に師事し、音楽家として世に出て活動するための縁故や後ろ盾を作る慣習的な役割を持つ教育
- ② 自由に演奏や観賞を楽しむことで、音楽を通して豊かな創造力や感性を育む教育
- ③ 音楽の理論や歴史について体系的に学び、文化や思想を深く理解するための学問的・研究的な教育
- ④ 従来の音楽界をこれからも盤石に維持するために必要なマネジメント能力を養う教育

問八 傍線部(6)「ひよつとして、あたしたちはとんでもないことをしてしまったのだろうか」とあるが、この時の三枝子はどのような心情か。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 天才の誕生に寄与したつもりだったが、推薦状にある敬愛する音楽家の名を重視しすぎてしまった自責や遺憾の思い
- ② 正規の音楽教育に真摯に取り組んできた候補者の未来を奪い、その人生を左右する決断をしたことへの後悔や罪悪感
- ③ 伝統的な価値観に背くような大胆な選択をすることで、自らが音楽界に影響を与えることができた達成感や優越感
- ④ これまでの音楽界の価値観を根本から変える可能性をはらむ決断に、自らが関与したという事実に対する恐れや不安

問九 傍線部(7)「彼を本物の『ギフト』とするか、それとも『災厄』にしてしまうのか」とあるが、その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

22

- ① 音楽界がカザマ・ジンの演奏中の態度や所作を、並外れた存在として好意的に受け取るか批判的に受け取るかということ
- ② カザマ・ジンが他の受験者よりどのくらい技能的に優れているかは、それを評価する聴き手の価値観次第だということ
- ③ 音楽界がカザマ・ジンを天才として迎え入れ彼が称賛される世界を受け入れるか、秩序を乱す厄介者として排除するかということ
- ④ カザマ・ジンが王道的な形式や技法で演奏できるかは、これから正規の音楽教育を受けるかどうかで決まるということ

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の(1)～(3)に示した熟語の対義語を完成するために、解答例にならない、それぞれ①～⑧の中から正しい組み合わせとなるものを二つ選び、
 順番は無視して、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(1)

(2)

(3)

(解答例) 拡大 ↑ ↓

- ① 小
- ② 尺
- ③ 縮
- ④ 弱
- ⑤ 減
- ⑥ 贈
- ⑦ 刷
- ⑧ 少

(1) 因果 ↑ ↓

- ① 理
- ② 偶
- ③ 故
- ④ 連
- ⑤ 屈
- ⑥ 然
- ⑦ 意
- ⑧ 鎖

(2) 明瞭 ↑ ↓

- ① 昧
- ② 歴
- ③ 鮮
- ④ 簡
- ⑤ 曖
- ⑥ 潔
- ⑦ 明
- ⑧ 然

(3) 類似 ↑ ↓

- ① 相
- ② 明
- ③ 違
- ④ 酷
- ⑤ 同
- ⑥ 意
- ⑦ 擬
- ⑧ 似

答 ① ③

問二 次の(1)～(3)の四字熟語の空欄に入る漢字を、解答例にならない、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1) 26

(2) 27

(3) 28

(解答例) 三 四温

- ① 漢 ② 乾 ③ 甘 ④ 寒 ⑤ 閑

(1) 危機

- ① 発 ② 抜 ③ 八 ④ 髪 ⑤ 初

(2) 千差 別

- ① 晩 ② 万 ③ 判 ④ 板 ⑤ 慢

(3) 器晩成

- ① 態 ② 待 ③ 耐 ④ 体 ⑤ 大

答 ④

問三 次の(1)・(2)の慣用句の意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)
29

(2)
30

(1) 顎を出す

- ① 高慢な態度で人を見下して指図すること
- ② 収入がなくなり生活ができなくなる事
- ③ 疲れ切つてどうにもならない状態のこと
- ④ 得意げな様子や思案している様子のこと
- ⑤ 驚きのあまり口を大きく開けてしまうこと

(2) 腕が鳴る

- ① 技術や力を発揮したくてじっとしてられない様子のこと
- ② 自分の腕前や力量に非常に自信を持っていること
- ③ 技術が上達するように訓練や練習をすること
- ④ 自分の得意な腕前を存分に活かした結果を出すこと
- ⑤ 優れた自分の技術や能力を得意げに見せること

問四 次の(1)・(2)に示した慣用表現の括弧内にあてはまるものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)
31

(2)
32

(1) 面接で猫を()

① かりる

② まねる

③ かつぐ

④ かぶる

⑤ なでる

(2) 私情にとらわれて目が()

① にごる

② くもる

③ かすむ

④ くらむ

⑤ はれる